

第4回 桐生市総合計画審議会 開催結果報告書

○日 時 令和5年9月4日（月）午後6時30分～午後8時30分

○場 所 桐生市保健福祉会館 5階 503会議室

○出席者 22名

【審議会】 18名

会 長：桐生市教育委員会 教育長職務代理者	板橋 英之
副会長：一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
委 員：桐生商工会議所 会頭	初山 和久
桐生市農業委員会 会長	今泉 芳雄
桐生市区長連絡協議会 会長	茂木 新司
桐生市社会福祉協議会 常務理事	大木 茂雄
桐生市子ども・子育て会議 委員	谷口 淳美
桐生市医師会 理事	星野 仁
桐生市婦人団体連絡協議会 体育振興部担当	間中 一枝
群馬大学 大学院理工学府 教授	天谷 賢児
群馬大学 大学院理工学府 教授	金井 昌信
新里の未来を語る会 会長	瀬谷 源
黒保根の未来を語る会 副会長	木村 光一
群馬県知事戦略部デジタルトランスフォーメーション戦略課 課長	間々田 祐美子
公募市民	清水 哲
公募市民	山口 典利
公募市民	茂木 和子
公募市民	園田 奈緒

(欠席者)

委 員：一般社団法人桐生青年会議所 直前理事長 深澤 佑太

【桐生市】 4名

<事務局> 桐生市共創企画部長	西條 敦史
桐生市共創企画部企画課長	橋本 頼孝
桐生市共創企画部企画課企画担当係長	森下 英明
桐生市共創企画部企画課企画担当	曾我 延博

【傍聴者】なし

【報道機関】1社

○会議内容

1 開 会 [開始：午後6時30分]

2 会長挨拶

・板橋会長より挨拶。

3 議 題

- ・議事に入る前に、事務局より、過半数以上の委員の出席により会議が成立していることを報告。
- ・議事進行は、桐生市総合計画審議会規則第4条の規定により、会長が議長として行う。

(1) 桐生市第六次総合計画 後期基本計画 (案) (第4～6章) について (資料1・資料2・資料4)

- ・資料4については、資料1の修正資料として、当日配付。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	資料2の92ページの目標指標に、電子申請が可能な手続きの件数が記載されているが、この手続件数はイベント、セミナーなどの単発で開催するようなものに対する申し込みも合わせた件数なのか。例えば、セミナーに参加する50人の内、30人が電子申請した場合には30件という考え方になるのか。
企画戦略担当係長	電子申請した人数ではなく、電子申請の件数である。どういった内容のものがカウントに入っているかは分からないが、全体で1,600件程度あるものの中で、目標指標を徐々に上げていく目標指標として設定している。
委員	1,600件程度の電子申請に対して1,000件を目標にしていることは、高い目標であることが分かる。この目標指標については、達成できるように頑張ってもらいたい。
委員	本日が最後の審議会となると、今回の審議会において後期基本計画を承認・決定するということか。
会長	そのとおりである。市長に答申する後期基本計画案については、本日の審議会において、決定してもらうことになる。答申後、後期基本計画を修正する可能性はあるのか。
企画課長	後期基本計画案については、本日、決定していただいた後、パブリックコメント等を実施する。パブリックコメントの中で、意見が提出され、修正すべきものだと市が判断すれば、後期基本計画を修正するという可能性は出てくる。
会長	市長に答申する後期基本計画案として、本日決定するが、前回の審議会では、アンケートが取れていないため、後期基本計画には掲載できないということもあり、その点は後期基本計画には反映されていない。このため、次期総合計画を策定する際には、アンケート等をしっかり取っていただき、計画に反映させるということを申し送り事項とさせていただきたい。例えば、第4章の4-4 防災・減災対策の推進における指定福祉避難所の件数などについては、非常に重要であり、喫緊の課題でもあると思う。せっかく出た意見であるので、どこかで反映されるようにしてもらいたい。

委員	<p>総合計画の中の基本構想に将来都市像として「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」を掲げているが、この将来都市像については、後期基本計画の中で、どのように反映されているのか教えてもらいたい。</p>
共創企画部長	<p>「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」は、本市の将来都市像として掲げているところであり、基本構想については前期基本計画を引き継いでいる。前期基本計画の中では、将来都市像について、「このまちには、長い歴史と伝統に培われた独自の文化や、潤いある豊かな自然環境など、さまざまな魅力があふれています。また、ここに暮らす人々には、まちの発展を支えてきた先人たちの心意気や誇りが脈々と受け継がれています。この恵まれた環境が住む人の感性を育み、感性が町の魅力を高め、新たな未来を織りなしていく。そんな持続可能で、洗練された「粋なまち桐生」を目指します。」という内容になっている。この将来都市像に向かって、様々な事業を展開していて、後期基本計画は、この将来都市像に向かっていくための目標となるものである。</p>
委員	<p>私も将来都市像である「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」を実現するための施策が、後期基本計画には記載されていると思う。これを実現するための施策が、第六次総合計画である。</p> <p>しかしながら、例えば、未来創生塾において、川で読書を行うなどの施策に関して、総合計画の中で、どのようにつながっていくのか疑問に感じることがあった。</p>
共創企画部長	<p>将来都市像である「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」の説明の中で、例えば、潤いある豊かな自然環境など様々な魅力に溢れています。と記載されている。このため、自然環境を保全していくことを基本計画の中で記載している。今、話があった未来創生塾など具体的な事業内容については、この基本計画に基づき策定する実施計画の中で、具体的な事業として記載するものとなっている。</p>
会長	<p>先ほど、委員が質問したのは、基本計画のイメージ図を示せると良いのではという意見だと思う。イメージ図があると、市民の方がイメージしやすく、分かりやすいのだと思う。</p>
共創企画部長	<p>実際、具体的にイメージできるものとなると、基本計画というよりは、個々の事業を記載している実施計画である。実施計画の策定時には、象徴的な事業について、分かりやすくなるように、考慮していきたい。</p>
委員	<p>この審議会に市民委員という形で参加させていただき、この審議会では後期基本計画の目標指標等が適しているかどうかということを確認するだけであって、新たなものをここに組み込んでいくことがほとんどできない審議会</p>

	<p>であった。今後、桐生市をこうしていくという意思や意欲などを、委員の立場からすると、ほとんど感じられないような気がする。この審議会を通して、委員から様々な意見が出てきたが、現状ではほとんど出来ないということに終始してしまい、この審議会そのものがどうだったのかなという所が、正直な感想である。</p> <p>桐生市の置かれている現状については、人口減少も進んでいて、危機的な状況であると思う。このような状況では、商売を行うことが出来なくなってくる人たちが、どんどん出てきてしまう。あるいは、次の世代に引き継がれないというようなものが起こってしまい、人が住めなくなってくるのではないかと。あと数年後には、危機的な状況になるのではないかと。次期総合計画の策定は、4年後になると思うが、その際にはもう少し尖ったというか、ダイナミックな変化みたいなものを考えていかないといけないと思う。もしかしたら、本当に成り立たなくなってくる危険性も感じてしまい、大変寂しい気がした。</p>
共創企画部長	<p>先ほど説明した、将来都市像を含んだ基本構想については、前期基本計画を引き継いでおり、8年計画として策定されている。今回の後期基本計画については、後半4年分のみを策定するものである。先程の委員の話については、基本構想は8年間として策定されており、基本構想は修正できないため、今回は基本構想の議論が出来ないというところがあったかと思う。委員から指摘されたように時代の流れも早いので、このまま4年間何もしないということは考えておらず、委員からも尖ったという話があったが、例えば、最近では、球都桐生プロジェクトということで、野球に特化した事業も行っている。また、「移住支援フロント むすびすむ桐生」を開設し、移住支援策なども進めている。市としても、危機感を持って、取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>今後の市のタイムスケジュールにおいて、どのようなまちづくりを考えているのかを確認したい。次期総合計画を策定する上で、この年度にはこのように取り組むということを教えてもらいたい。</p>
共創企画部長	<p>現状では、この第六次総合計画後期基本計画を策定することが最大の目標である。この計画を策定するにあたり、この審議会において様々な意見もいただいた。このような中、4年後には、次期総合計画をスタートしなければならず、時代の変革を考えながら、次期総合計画の策定自体を考えていかなければならない。その策定方法をどうしていくか、市民の声をどう反映していくのかについては、今後具体的に考えていきたい。この場において、策定スケジュールを提案できれば分かりやすいということもあるが、現状では、後期基本計画を策定することで精一杯という状況がある。後期基本計画を策定した後に、これらの意見を踏まえて、今後どうあるべきかということをしっかり考え、次期総合計画の策定に取り掛かっていきたいと考える。当然その過程では、市民の声をどのように反映していくのかということも考えていきたい。</p>

<p>会長</p>	<p>今、委員が発言されたことが重要であり、この総合計画の基本計画は、様々な施策を網羅して並べて策定した。どの自治体も同じような総合計画を策定している。ただ、総合計画を策定して終わりではなくて、みんなで議論してやっていく場所が必要だと思う。この審議会はこれでよいと思うが、審議会ではないところで議論することが非常に重要だと思う。今回の審議会において、議題その他のところにおいて、そういう要望があれば、決議をするなど、この審議会として、桐生市にお願いしたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>結局、総合戦略が大事になってくると思う。今のままでは、総合戦略についても後期基本計画と同じように、市が策定したものを確認して、結局それで決定されてしまう。だから、タイムスケジュールを教えて欲しいと言っているのは、次期総合計画を策定する際には、2年前や1年前から取り組むと言ってもらえれば、それでは間に合わないとの話ができる。次期総合計画の策定について、今回の後期基本計画と同じような策定スケジュールであれば、結局、同じような計画ができてしまうわけである。</p>
<p>共創企画部長</p>	<p>後期基本計画の策定については、今回のような日程になってしまったが、次期総合計画を策定する時には、総合計画も総合戦略も対になって策定していることから、もっと十分な時間をかけて策定しなければならないと考えている。その中で、しっかりと市民の意見を伺う中で、審議会だけを開催すればよいのかということも考えなければならない。今回は、若者からの意見を聴取する機会を作ったので、継続的に意見を聞く機会を設けることも、視野に入れている。先程申し上げたが、現状では、後期基本計画を策定することが喫緊の課題となっている。後期基本計画の策定後、次期総合計画の策定に向かって、どのように進めたらよいのか時間をかけて、考えていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ぜひ、お願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料4の第5章の都市基盤の整備において、4ページの市民1人あたりの都市公園の敷地面積の目標指標を削除し、新たに「老朽化した公園施設の解消割合」の目標指標を設定しているが、公園施設の老朽化は、年数で区切るのか。</p>
<p>企画課担当</p>	<p>例えば、遊具の老朽化については、ひび割れや劣化具合に関して、職員が確認を行う。例えば、AからDまでの老朽化に関する判定を行い、危険な遊具等から順次更新を行う。</p>
<p>委員</p>	<p>ある公園内に老朽化した遊具がいくつかあった場合、市の予算は決まっているわけであるから、全部の遊具を修繕できない。このような場合には、1つの遊具を修繕したら、それで解消になるのか。それとも、全部修繕しないと解消のカウントとされないのか。何を持って解消となるのか教えてもらいたい。</p>

	私とすると、毎年の予算が決まっているとすれば、目標指標に設定できないのではないかと思う。
企画課担当	本市が策定している都市公園の長寿化計画については、令和3年度から令和12年度までの10年間の計画となっている。この計画に基づき、それぞれの年度において、どの遊具の改修工事を実施することが決まっている。目標指標については、その改修工事費の進捗率を設定している。
委員	例えば、3年後には、老朽化する遊具が増えるわけだから、予算が決まっている範囲で改修工事を実施すると、目標指標に設定できないのではないかと思う。
共創企画部長	市内の全ての公園を調査しており、小さい修繕等はあるかもしれないが、大きな修繕については、概ねこの年度ぐらいまでには修繕が必要になってくるということを見越して、計画を策定している。
委員	この後、重点施策について説明いただけると思うが、基本計画の上に重点施策があるのか。 また、球都桐生プロジェクトは、非常に素晴らしいと思うが、後期基本計画の中でどのように出てくるのか。
共創企画部長	総合計画が市の最上位計画になる。総合計画の中に基本計画があるため、基本計画の中で、重点的に推進するものを選び出して、重点施策として記載している。 次に、球都桐生プロジェクトだが、球都桐生プロジェクトは具体的な事業として捉えている。後期基本計画の中では、球都桐生プロジェクトについては、スポーツの進行や、公民連携の推進という項目の中の具体的な事業としているため、具体的な名称としては、記載していない。球都桐生プロジェクトの目標というのは色々あり、例えば、シティブランディングの推進や、スポーツの進行という観点もある。具体的な事業の内容については、実施計画の中に出てくるものと考えている。

(2) 重点施策について (資料2)

・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	重点施策の目標指標である社会増減数が記載されているが、桐生市の人口動態については予定よりも早く人口減少が進んでいる。また、合計特殊出生率も1.09である。この目標指標だけ見ると桐生市の実態が反映されていないというか、これで目標指標を設定すると間違ってはいないかと思う。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

共創企画部長	<p>今回は、後期基本計画の策定であり、基本構想の変更は行わない。基本構想では、人口の将来展望を記載しており、目標とする将来人口は2027年に9万9600人、2023年に10万5000人という計画になっている。なお、この重点施策についても、後期基本計画の4年分の内容になっているので、理解いただきたい。全体の人口としては、先ほど説明したとおり、2027年に9万9600人という大きな目標は変わっていない。</p>
委員	<p>この会議は、審議会であるため、苦言を呈しただけであり、後期基本計画に反対しているわけではない。</p>
委員	<p>重点施策における目標指標であるが、合計特殊出生率については、2021年度の基準値1.09を2024年度の目標値1.51まで上げて、その後の増加率は0.02ずつ上げる目標になっているが、何の根拠があるのか。社会増減数についても2021年度の基準値560人減であるものを、2024年度の目標値では275にまで減らしている。その次年度からは、5ずつしか減らさないという目標指標の設定方法について、教えてもらいたい。例えば、計画の最終年度である2027年度の目標値について、合計特殊出生率1.56と社会増減数260人減を達成したいのであれば、目標に向かって一定割合で下がっていく目標指標だったら分かるのであるが、現状の目標値はそうではない。</p> <p>また、重点施策は総合戦略で議論されるということであったが、審議会のほとんどの委員が、総合戦略の委員ではないと思われるので、この審議会で議論されていることが、総合戦略側にメッセージとして届けられないことを踏まえると、重点施策については、すごく絞って尖がった形にして、メッセージ性を強くしたらどうか。</p>
企画課長	<p>2024年度から2027年度までについては、当初人口ビジョン等から算出し、この8年間の中で、2027年度までを見越した時、その目標人口を達成するための合計特殊出生率として目標値を設定した。確かに2021年度の実績値は、1.09と低い数値のため、急に上がっているという風に見えるわけだが、計画上の人口を維持するための出生率を記載している。社会増減数についても、実績値ということで記載している。</p> <p>次に、2点目の総合計画審議会と総合戦略推進委員会であるが、今回の審議会委員19名の内8名が、総合戦略推進委員を兼ねている。このため、全く予備知識もなく、総合戦略推進委員会に諮るという状況ではない。もちろん、初めての推進委員もいると思うが、丁寧に説明しながら、進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>今の説明だと、この目標指標に設定されている2024年度以降の目標値については、前期基本計画の内容を、そのまま掲載しているだけなので、ここで見直す必要はないのではないか。</p>

会長	2021年度の合計特殊出生率が1.09であれば、目標値については徐々に上げていく方がよい気がする。
委員	合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性が一生のうちに産むであろうと推測される人数であって、これは桐生市にいる15歳から49歳までの人が1.09人しか産まないということだが、15歳から49歳までの人数が減っている。合計特殊出生率については、国が示すのであれば意味は非常にあると思うが、桐生市の場合には出生数を目標指標に設定するのも一つかと思う。出世数の方が具体的で分かりやすい。合計特殊出生率を残しておいてもよいが、出世数が本当に減っていることが問題である。合計特殊出生率の2021年度の1.09が、2024年度に1.51まで上がるかその手順を教えてください。
会長	目標値は、基本的に変更できないのか。
企画課長	第六次総合計画に記載している人口推計において、この人口推計が動かないということを前提にして進めているため、目標値を変更するということはない。この目標をクリアさせるための目標値ということである。
委員	そうなのであれば、今説明された内容を記載した方がよい。施策の目標値ではなくて総合計画の目標人口を担保するためには必要な目標値であり、今後4年間での政策においてこれが達成できるとは思えない。ということが書いてあってもよい。基本構想に記載されている目標人口を確保するために、これが必要だったという数字を載せているだけである。年間の施策を実施して、この目標値に上げようとはしていない。
共創企画部長	最終的には、2027年度の目標値に向けて上げていきたいが、上がるという根拠はない。
委員	先ほど委員から発言のあったとおり、出生数を目標指標に設定してもらった方がよいと思う。
共創企画部長	合計特殊出生率の設定については、当初から非常に辛いところがあった。第2回の審議会において、合計特殊出生率に関して議論があった際に、合計特殊出生率は非常に大事な数値であるため、どこかに残した方がよいという委員さんからの指摘を受けたことを踏まえ、後期基本計画のどこかに記載しなければならないとのことで、今回重点施策の目標指標として設定した経緯がある。
会長	先程、委員から発言された出生数については、実際の生まれた人数を記載するというのでよいと思う。

共創企画部長	以前の審議議においては、合計特殊出生率が非常に重要であり、目標指標として残した方がよいという意見をいただいた。重点施策の目標指標については、合計特殊出生率ではなく、出生数との意見をいただいたので、検討させていただきたい。本日は、出生数の目標値を示すことはできないのだが、どのようにしたらよいか。
会長	本日の審議会が最後になるので、会長・副会長に一任させていただくという形でまとめさせていただければという風に思う。そのような形でよろしいか。
各委員	了承する。
委員	私は、今回から審議会の委員をやらせていただいているのだが、新たに見直して後期基本計画を策定するのであれば、前期基本計画の最初の数年間でかなり状況が変わり、当然修正もあるわけだから、その上で現実的なものを入れていくっていうことはできないのかと思う。基本構想を8年間修正できないとなると、8年間遅れるわけである。柔軟に計画策定できる考え方がよいのかと思う。

(3) 答申(案)について (資料3)

・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	ただいま、事務局から説明いただいたが、答申案はこのままでよいか。
各委員	了承する。

4 その他

会長	「その他」であるが、最後の審議会なので、何か発言がある委員はいるか。
委員	<p>審議会については、本日で終わりのため、一言だけ発言したい。私は、新里の未来を考える会を代表して参画している。この審議会では、新里町には直接触れていないような感じがしたため、意見をほとんど出せなかった。ただ、今後においてお願いというのは、新里町も桐生市の一部なので、しっかり受け止めながら、桐生厚生総合病院の問題や、建築後50年近く経過している桐生警察書など、老朽化している施設の問題に取り組んでももらいたい。渡良瀬川を挟んで右岸と左岸で、交通の便など色々なことが悪いと思っている人もかなり多い。</p> <p>それと同時に元々の桐生市の人口は減っているため、どういう風にするべきか考えなくてはならない。これは、すごく重要な課題になると思う。今のままでは、桐生がますますだめになってしまうことも想像できる。今後、私はこうい</p>

	った会議に出られないと思うので、お願いしたい。
委員	私からのお願いですが、総合戦略推進委員会に参画している 8 人の委員に加え、市役所の担当職員も異動してしまうかもしれない。その際に、引き継ぎが、きちんとできるのかということに心配している。私は今回、気合を入れて、審議会の委員になったのだが、ストレスが溜まるだけで、基本的には計画をいじらないという大前提がある中で、決定されてしまった。総合戦略が 1 番大事である。その総合戦略を重視してもらい、時間をかけて様々な意見を聞いてもらわないと、この総合計画では桐生市の人口減少は止まらないと思う。もう少し専門家の意見を聞いてもらいたい。書類上とかテーブル上だけの話じゃなく、現場の意見をもっと聞いた方がよい。都市計画から始まって、少子化対策も含めて全部である。これも含めて、次期総合計画の策定の時には、誰かがきちんと引き継いでもらって、やっていかないと何も変わらないと思うので、よろしくお願いしたい。
会長	その議論をきちんと行っていくことが非常に重要だと思う。「移住支援フロント むすびすむ桐生」を提言してもらった総合戦略のワーキンググループは非常によい。ワーキンググループにおいて、きちんと議論することが非常に重要だと思う。
委員	総合戦略のワーキンググループについては、人口減少対策の一環で、一点突破という大前提のもとで行った。最終的には、本町の事務所に「むすびすむ桐生」を開設したが、これは賛成である。しかし、人口減少対策になるかと言われると、疑問である。お店を開店してシャッターを開けたいとか、商店街を賑やかにしたいという計画のもとで、開設したならば成功するかもしれない。しかし、人口減少に歯止めをかけられるだけの一点突破なのかというと、私もワーキンググループに参加していて申し訳ないが、議論の途中で方向性が変わってしまったような気がしている。もう少し広いエリアで人口減少対策をやっていこうという方向になっていない気がする。すごく小さくなってしまった。
会長	「むすびすむ桐生」については、できるところからやったという感じである。本当ならば、もっと広いところでやっていかなければとは思いますが、できるところから手をつけたということである。そういった点も、フォローアップじゃないが、もっとこうした方がよいという場所を継続的に作っていくことが重要だと思う。
委員	桐生市のまちづくりに関して 7 年ぐらい前から、勉強を始めた。市役所の職員からすると、財政的な部分が問題であると思う。お金をかければ出来るけど、お金がないから出来ないという部分があると思う。先程、別の委員からの

	<p>発言にあったとおり、重点施策を絞った方が良いと言われたが、市役所の立場もある程度考える必要がある。市役所の担当者からすると、こういう形になってしまうとやる気がなくなってしまうのではないか。そういうことも含めて、お金がなければ何もできないってよく市役所の担当者が発言するけど、まさにその通りという所もある。そうすると、我々のアイデアと行動力を足していないと出来ないため、みんなで議論していく必要があると思う。</p>
委員	<p>委員の言いたいこともよく分かるが、だからこそ、やる気がなく成果を出していない事業などは1回全部止めてしまえと思う。私とするとやる気があって、協力すると言っているのに、全然動かないことに付き合ってきたので、我々が強制的に割り振るぐらいをできる範囲でやればよいと思っていた。それができないのであれば、桐生の将来を考える審議会や、総合戦略推進委員会の委員について、ガラッと若い人だけにするとか、それぞれの関連団体から委員を入れることを全部取っ払ったりすることは、すぐできるのではないかと思う。</p> <p>この審議会だけではなく、桐生市の他の委員会などに出ると、委員の皆さんが、必ず桐生市は危機的状況であると発言するが、あえて先輩方に立てつくように申し上げるならば、誰がこの状況にしたのかという話である。我々全員がこの状況にしてしまったわけである。年を重ねた人こそ、その責任があるはずである。</p> <p>当事者意識を持って自分たちにやれることをやるという発言が出るたびに、誰かがこのような状況にしてしまったという当時者意識がなく、その結果だけを誰かに押しつけることを感じる。このため、このような発言を行わない委員、つまりもっと若い世代の人に考えてもらい、経験や知識が足りないところはお金を出して、専門のシンクタンクに入ってもらい意見を聞くという、全然違うやり方で会議をやってもよいのではと思う。なぜ、このように思ったかという、先ほど継続性がないというのは、確かにそうだなと思った。前回の審議会を立ち上げた時の会長は途中で亡くなってしまったため、委員の選び方について意見させていただいた。</p>
会長	<p>非常に重要な意見である。ぜひ、総合戦略では、検討していただきたい。</p> <p>最後になるが、重点施策の目標指標については、会長と副会長に一任をいただければと思う。修正した後期基本計画（案）を答申したいと考える。</p>

5 閉 会 [終了：午後8時30分]

以 上